

# 第 65 回 河川レンジャー制度運営委員会 議事要旨

開催日：令和 4 年 3 月 14 日（月）14:00～16:00

実施場所：オンライン+琵琶湖河川事務所 1 階第一会議室

出席者：制度運営委員会委員：中谷、北井、平山、辻、矢野

琵琶湖河川レンジャー：根木山、水上、福西

事務局：琵琶湖河川事務所；幅岸、小澤、堀

流域連携支援室；中西、井上

(敬称略)

## 1. 議事

### ■ 報告

- (1) 2021 年度の年間実績
- (2) 第 64 回・臨時開催 河川レンジャー制度運営委員会の議事要旨
- (3) 琵琶湖河川レンジャー勉強会「野洲川における地域活性化に向けて」開催報告
- (4) 琵琶湖河川レンジャー・守山市・琵琶湖河川事務所意見交換会 開催報告
- (5) 河川レンジャーの募集に関する取り組み
- (6) 2021 年度 琵琶湖河川レンジャー年間活動報告

### ■ 審議

- (1) 2022 年度 琵琶湖河川レンジャー年間活動計画（案）【暫定版】

### ■ その他

- (1) 2022 年度の年間スケジュール（案）
- (2) 河川レンジャーレポート Vol. 45 発行について

## 2. 結果 [凡例：○ 委員、□ 河川レンジャー、△ 事務局]

### (1) 報告

事務局より報告 (1) ～ (5) を報告した。また、河川レンジャーより「2021 年度 琵琶湖河川レンジャー年間活動報告」が報告された。

#### 【根木山レンジャーの報告について】

○地域の収益につながる取り組みとは、地域の方がどの程度求めておられるのか。

⇒□地域の自治会長や地域活動のリーダーの方から、地域活性化においては“若者が働く場”などの雇用に関する面も期待されている。イベントの事業化を目指すうえでは、そのような視点を持ちつつ、気軽に遊べる内容に取り組んでいる。

○守山市以外の方の参加（参加者の広がり）は見られるか。

⇒□今年度の河川レンジャー活動では、野洲市の三上小学校の支援を実施している。今後も野洲川の上流域で活動していければと思う。三上小学校とのつながりは、中洲での河川レンジャー活動をご覧になられたことがきっかけである。その他として、滋賀県土木事務所の紹介で湖南市とも新たにつながりができた。

○根木山レンジャーの環境学習の広がりを感じました。今後ですが、野洲川の下流・上流で活動を展開されるうえで、個人の動きだけでは大変ではないか。

⇒□今年度の野洲川上流の活動（三上小学校）では、流域連携支援室に協力頂いた。今後も流域連携支援室、ならびに行政の方などと連携していければと考えている。

○活動テーマ“住民との主体的なつながり”に関して、成果について教えて欲しい。

⇒□過年度から継続的に実施している中洲親水公園での「野洲川で川あそび」活動を通して、小学生の時に参加した子が、現在高校生になっても継続的に本イベントに参加してくれていて、河川レンジャーの勉強会「E ボート研修」にも参加してくれた。そのようなことから中洲学区の子どもや保護者との主体的なつながりができたと感じている。

#### 【水上レンジャーの報告について】

○野洲川河川清掃活動で実施されたアンケートの内容は、本イベントに特化したものか。もしくは、河川への興味・課題・ニーズなども含めたものか。

⇒□河川への興味・課題・ニーズなども含めた内容です。アンケート結果をみると、本イベントに関する住民の意見が多く、河川への興味・課題・ニーズに関する意見については野洲川を教育フィールドとして活用してみたいとの意見があったぐらいです。

○活動報告の自己評価の記載方法について、これはイベントの実施の結果のみを記載するのではなく、河川レンジャーとして各種取り組みで、当初想定した成果と事後の変化や、得られた課題・問題などを記載してはどうか。

○野洲川河川清掃において、企業・学校と連携した結果、相手側のリアクションに何か変化はあったか。

⇒□次年度も企業・学校との活動の継続を確認できた。レイマックについては、次年度の活動について既に打合せを実施した。企業側から主な意見として、今後は SDGs に関する取り組みも含めて継続したい旨を確認した。

#### 【福西レンジャーの報告について】

○河川レンジャー活動の企画にあたっては、周辺の地域・行政の活動（秋に琵琶湖河川事務所が呼びかけている一斉清掃、自治体やNPO団体の清掃活動、散歩している方の実態など）を先に情報収集を行うとともに、合流されてはどうか。その際に、地域・行政の現状・課題・ニーズを認識し、それらを活動計画に反映することが、河川レンジャーとしての“つなぐ”に向けたひとつの動きかと思う。

○福西レンジャーの活動における移動について、自宅（奈良県）から活動場所（瀬田川）の移動は、時間的にも体力的にも大変ではないか。また、月間報告では夜間での活動が多いですが無理な活動になってなかったか。

⇒□仕事の都合上、不定期な活動になったり、夜間に活動することになったが。そのため、安全管理として足元をライトで照らしたり、相手の様子を伺いながら工夫し、自分自身としては楽しく安全に活動できたと思う。

○活動の規模として、今年度全体で何名ぐらいの方にお会いして、活動される方がどれぐらいおられたか、どの程度知り合いになられたか。

⇒□河川レンジャーの名刺を 50 枚作成していただいたものをお会いした方に全て配れた。その中で、滋賀パトロールランニング団体と知り合い、今後の活動への協力関係の約束ができた。

⇒○広げたい時期か、深めたい時期かを自分自身で考慮して活動すると、より信頼関係が生まれると思う。例えば、現地に行く時間などを固定すると、会う人も固定されると思う。

○信頼関係を築きと書かれている点については、当初はどのような考えであったか。

⇒□二回目にお会いした際に、感謝の言葉を相手から掛けて頂いたり、名前を覚えて頂いたりすると信頼関係ができたという評価したいと思う。

⇒○信頼関係が築けた方が、1年経ってどれぐらい増えたかということ伺いたい。

## 【共通】

- 3人とも新型コロナ禍で多くの制約のある中で、様々な活動をしていただいたことに御礼を申し上げます。
- 動きにくかったことも多いと思うが、気になったことがあれば、事務局や支援室にお話いただけたらと思う。河川事務所でも可能なことは拡大が図れたらと思う。

## (2) 審議

河川レンジャーより「2022年度 琵琶湖河川レンジャー年間活動計画（案）【暫定版】」の説明を行い審議した。

### 【根木山レンジャーの計画について】

- 河川レンジャー活動における“商業化”に向けた動きについて、従来つながりができた人との連携・実施を計画されているが、外部の人も積極的に巻き込んで、更なる活性化を図って欲しいと思う。

### 【水上レンジャーの計画について】

- 野洲川河川清掃において、昨年度の課題“住民主体のリーダーを配置すること”について、どのように対応されるのでしょうか。
  - ⇒□事前に“幼木伐採”“炭作り”などの予行演習を実施し、リーダーとしての自覚を持ってもらえるよう働きかけるつもりである。
  - ⇒○伐採作業ができる方がリーダーもできるとはならないと思う。水上レンジャーが目星を付けて、リーダーとして育成されるほうが良いと思う。
- 野洲川河川清掃におけるバスの手配については、守山市や琵琶湖河川事務所、もしくは流域連携支援室と事前に調整されてはと思う。

### 【福西レンジャーの計画について】

- 河川レンジャー活動を実施するうえでは、イベントの企画や実施というよりも、イベントを通して住民のマナーの実態を把握すること、住民の川に対する思いなどを把握することの方が重要であり、普段から手段と目的を念頭におくことが望ましいと思う。
- 活動実態を見えるように、積み上げをいかにするか、住民と話をした内容、その背景などを表現することが重要。報告を意識して活動を蓄積していただければよいと思う。報告では、「いつ、どういう活動を積み上げているか」が伝わるのがポイントになる。
- ライフジャケットの着用を啓発される際は、RAC（NPO法人川に学ぶ体験活動協議会）が作成した川の安全のための小冊子があれば、それも渡しながら活動することもよいと思う。

## (3) その他

### ■2022年度の年間スケジュールについて

事務局より、2022年度の河川レンジャーの年間スケジュール（案）を説明した。

- 流域連携支援室における河川レンジャーに関する各種取り組みにおいて、自治体が参加されるイベントを実施される際は、河川レンジャー活動に関係がありそうな自治体の部局の参加を積極的に呼びかけて頂ければと思う。

○河川レンジャーレポートの配布先について、河川レンジャーの関わりのある地域・学校などを加えてはどうか。

以上